

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの夕ネまき

新聞 No. 639

〈物事を動かす〉

「動かなければ変わらない」と言われますが、動こうと考えることはあつても、実際に行動に移すことは少ないかもしれません。

日常生活のなかで「こうしたいな」「このように変えたいな」と思っても、できない理由が頭に浮かび、面倒な気持ちにもなり、行動に移せないことが多々あります。

特に年を重ねると、社会経験も増え、なかなか新たなチャレンジも億劫になり、結局は現状維持に留まつてしまうのかもしれない。

人それぞれに考え方が違いますので、すぐに行動に移すことが正しいとは言えませんが、私自身は「思いつ

いたら即行動を心がけています。

時には、もう少し時間をかけて考え行動すればよかったと思うこともあります。考えれば考えるほど、できない理由が脳裏をよぎって行動に移せません。そして多くの場合、行動しなければ何も変わることがなく、現状のまま過ぎてしまいます。自らが動けば新たな発見があり、物事を動かすこともあります。思い通りにいかなかったとしても、人生の貴重な経験になると思います。人生には限りがあります。現状に満足せず「物事を動かす」時間を多く作りたいものです。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

※イラストはイメージです



山形県

小杉の大杉(曲川の大杉)

推定樹齢1000年と言われている天然巨杉。丸みを帯びた可愛い姿が人気です。



山王くらぶの近くの日和山公園には巨大な北前船の模型が池に浮かぶ



飾り細工は願いに合わせて数十もの種類がある



世間話をしながら、楽しそうに傘福作りを行う傘福くらぶの皆さん



106畳の大広間に大小さまざまな傘福が飾られた様は、圧巻の景色



傘福

女性たちが
願いを託した吊るし飾り



江戸時代より地域の女性たちが作ってきた傘福。2005年より酒田商工会議所女性会の主導で制作されている。

真っ赤な傘に吊るされた
心のこもった小さな飾り

江戸時代、北前船と呼ばれる廻船が日本海を航行し、江戸や大阪に米や魚、特産物などを運んでいました。山形県酒田市は、その西廻り航路の寄港地として栄えた港町です。

そんな酒田市に伝わるのが、日本三大吊るし飾りの一つ「傘福」です。真っ赤な傘（天蓋）に、花や動物、赤ちゃんをかたどった人形などの可愛い飾り細工が吊るされています。一般的な吊るし飾りは、桃の節句に雛人形とともに飾られることが多い

おくるみ人形、豊漁祈願に地元名産のイカなど多彩。また、宝袋や打出の小槌など商売繁盛を願う細工を吊るした「宝づくし」と呼ばれる傘福があるのも、商人の町・酒田ならではです。

傘福作りの場には、
今日も楽しげな
笑い声が響く

「みんなで話しながら作るから楽しなんよ」「ほら、可愛い顔だんでろ」と、楽し気な声を上げているのは傘福作りを行っている「傘福くらぶ」の皆さん。

会長を務める佐藤美和子さんは「こんな風に女性たちが集まって、家族や暮らしのことを話しながら作るの、きつと昔も今も変わらないんでしょうね」と笑顔で話してくれました。作り方は、大きさや厚さの違いを生地を張り合わせたものを、型紙を使って断裁し、綿を詰めながら縫っていきます。全て手仕事なので、同じ細工でも作り手によって表情が異なるのも魅力の一つ。

また、最近では小学校の手芸クラブと一緒に作ったり、地元の職人さんが染めた紅花染めの布で統一したり、その年の干支だけを吊るしたりと、さまざまな傘福が生まれています。

こうして作られた傘福は、毎年新春〜秋にかけて、国の登録有形文化財である元料亭の建物「山王くらぶ」にて展示されています。直径2mの傘に999個

ですが、傘福は季節を問わず飾られ、結婚祝いや子どもの誕生祝い、お店の開店祝いなどにも贈られているそうです。

「傘福の起源は、江戸時代。今より食べ物も医療も豊かではなかった時代に、女性たちが古布を持ち寄って集まり、家族の健康などを願って作っていたそうです。そして出来上がった傘福は、神社仏閣に奉納していたと伝えられています」と教えてくれたのは、酒田商工会議所女性会・会長の岩間奏子さん。

人々の願いを表す飾り細工は、子孫繁栄の象徴であるねずみや、子どもの成長を願った



飾り細工は全て割り切れない奇数で吊るされる

ものの細工が吊るされた巨大な傘福もあり、芸術品のような美しさ思わずため息がこぼれます。

「実は、傘福は一時期途絶えそうになった文化でした。けれど絶やしてはいけなと、商工会議所女性会が声を上げて市民の皆さんと一緒に6千個の飾り細工を作りました。それから16年、今では全国各地や海外からも傘福を見に酒田を訪れる方もいらつしやるようになりました。今後は、この文化を若い人たちにつなげていきたいですね」と岩間さんは語ります。

健やかな暮らしを願う女性たちの祈りから生まれた傘福。その思いは今に受け継がれ、一針一針大切に紡がれています。

傘福のふるさと
山形県酒田市

酒田市は江戸時代に、北海道の港から江戸に向かう北前船の寄港地として繁栄した街です。米保管倉庫である山居倉庫や庄内米歴史資料館など、米どころとしての当時の歴史を見られる施設が多数残っています。

台所の相談室

「タネレシピ」もいよいよ最終回。
タネの食材はどれも身近で、
もう一品欲しい時にもぴったり。
日々の献立にお役立てください。

FILE 22

お口にも、お財布にも優しい
アレンジ自在の万能選手です。

タネレシピ最終回の主役は
「もやし」です。もやしは、穀類や
豆類の種子を人工的に発芽さ
せた新芽で、ほぼ種に近い野菜。
昔から変わらぬ味とお値段で、
家庭料理の強い味方であること
から選びました。

我が家では、家族が争って食
べるほどもやしが大好物です。
一人一袋、さらにもう少し量を
増やして作っても、あつという間
にお皿が空になるくらい。

そして、毎日食べても飽きな
いところも魅力的です。もやし
自体が淡泊だから調味料も選
ばず、いろいろとアレンジが出
来るのがいい。シャクシャクと
歯ざわりよく仕上げててもよし、
くつたりとやわらかく仕上げて
もおいしく、そして最近では生で
食べることもあります。汁麺の
トッピングに生もやしをのせ、
上から熱々のスープをかけて

食べたり、生春巻きの具として
生もやしを入れたりすることも。
ただし、ヒゲ根取りは忘れず
に。ヒゲ根が臭みの元ですので、
ヒゲ根取りをしたもやしはごち
そうに変身します。

身近な食材ほど、ほんの少し
手間をかけてあげること、おい
しさが何倍にもアップします。



ひだかずを
飛田和緒さん
料理家。1964年、東京都生まれ。
独自のアイデアレシピが人気。
新刊の『季節を味わう 保存食手帖』
(扶桑社)を始め、著書多数。

お悩み

創刊50周年を記念し
編集室からのリクエストです！
新聞のタイトルにちなんで、
いろいろな「タネ」を使った
レシピを教えてください！

喜びのタネまき新聞
編集室

もやしのナムル

〔材料(2人分)〕

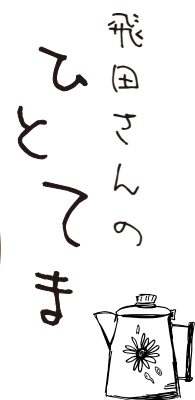
もやし……………1袋200g
白ごま……………適量
赤唐辛子(小口切りのもの)……………適量
にんにく……………半かけ
塩……………小さじ1/3
ナンプラーまたは薄口醤油……………少し
ごま油……………大さじ1.5

〔作り方〕

- 1 もやしはヒゲ根を取り、耐熱皿に厚手のペーパーを敷いてのせ、ふんわりとラップをかけて電子レンジ(500W)で5分程加熱する。
- 2 すぐに取り出さず粗熱が取れるまで電子レンジの中に置き、取り出してからラップを外す。
- 3 ボウルの底ににんにくの切り口をこすり付けて、にんにくの風味を付ける。
※こすり付けた後のにんにくは、別の料理でお使いください。
- 4 ②のもやし、白ごま、赤唐辛子、調味料を合わせて、手でよく和える。



Answer Recipe



もやしは日持ちしないので、

食べる日に買うようにしていま
す。どうしても食べられない時
にはヒゲ根を取り、水に浸して
冷蔵庫に入れておくと2日程
は良い状態で保存できます。
そして、和え物なら加熱は茹
でるよりも電子レンジでチンす
るのがおすすめ。水気が出ず、
味がしつかりと入ります。

台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、
ちょっとした悩みを、飛田さんに
相談してみませんか？
お便りをお待ちしています。
宛先は裏表紙をご覧ください。



ほほえみのひろば

since 1971
50年分の
ラブレター

創刊50周年を記念して
「喜びのタネまき新聞と私」をテーマに、
たくさんのラブレターを
お寄せいただきました。

記念号では掲載しきれなかった、
うれしいお便りをご紹介します。



人とつながる新聞

広島県広島市 畠 さゆりさん

きまつて最初に読むのは「ほほえみのひろば」。人と人とのつながりを感じて心が和み、共感したり、時には自分を恥ずかしく思つて反省したり。「優しい人が、たくさんいるんだなあ」といつも思います。
紙面を通じてたくさんの方と出会えることを、今後も楽しみにしています。

うれしい再会

岐阜県関市 水口 美由紀さん

過去に掲載してもらった時、「あなたの名前を新聞で見つけて、懐かしくなつて来ちゃった!」と、知り合いが訪ねてきてくれました。彼女と会うのは、何十年ぶりだったでしょう。
当時の私は、不安でいっぱいになりながら子育てに奮闘していました。そんななか、彼女から可愛い人形をもらった時のうれしさは忘れられません。
その人形は、今も変わらず我が家の玄関でほほえんでいます。

温かな光景

佐賀県杵島郡 梶原 英美さん

624号の表紙で描かれていた、沖縄県の川平湾。美しい浜辺で楽しそうに遊ぶ人、遠くに見える島を眺める人、船に手を振る人…とても表情豊かで温かな光景でした。
私が住む佐賀県にも、似たような景色を見られる場所があります。そんなことを思い出させてくれたり、読むと心が温かくなったり…。ついつい、私の好きな言葉「ありがとう」を言いたくなっています。

祖母からの贈り物

秋田県秋田市 石田 久美子さん

亡くなった祖母の持ち物から昔の号を発見し、表紙写真の男の子を見てびっくり! 私の長男にそっくりだったのです。きっと祖母もそう思い、大切に取ってくれていたのでしょう。
亡くなった今も、私に「喜びのタネ」をくれた祖母。今度は私も、誰かを幸せな気持ちにしたいなと思います。

今日をリセット

静岡県駿東郡 脇屋 稔子さん

日々の献立を考えるのが一苦勞な私は、気に入った飛田さんのレシピをノートに貼って、何度も作っています。「ほほえみのひろば」も心が温まる話ばかりで、仕事で遅く帰宅した日に新聞が届いていると、疲れた心が癒されます。
食器洗浄機をセットしてから、新聞に目を通すのが決まりの習慣。今日をリセットして、明日も頑張ろうと思える活力になっています。

一日も早い収束を

群馬県高崎市 小柳 智子さん

新型コロナウイルスの感染拡大で生活が一変しました。長く生きていると、良くも悪くもいろいろな事が起きるんだな、と改めて感じています。
そんななか、楽しみにしているのがこの新聞。「ほほえみのひろば」でほっこりし、「燈々無尽」は切り取って、時折読み返しています。
そして一日も早く、皆の明るい話し声の聞こえる日が戻ってくるよう祈るばかりです。

燈々無尽

うれしかったら

私はうれしい事があると、自分はこんなにも恵まれて良いのだろうか、心からのお礼を神様に申し上げずにはられないのです。そうして、お誓いすることは「今度万一、苦しい事、いやな事が起こっても、今のお返しに不平や苦情は申しません」と、祈ることを忘れません。
喜びの大きかっただけ反省をし、思ひ上がりを捨てて自分になろう。

ダスキン創業者 鈴木清一

愛の輪通信

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業
第37期研修生 大塚里奈さん(肢体不自由)

研修で得た一番の成果は、
私自身を信じられるようになったことです。



研修後、日本に帰国すると、以前とは世界が全く変わって見えました。ポストンでの研修で私の意見や行動を受け入れている方々に恵まれたことで、「障がいがあるのは生き方の一つで、人生を楽しむエッセンスだ」と思えるようになったのです。

最近新しい挑戦も始めて、自ら行動することで道が拓けると実感しています。引ッ込み思案だった私が、この研修で学び、変わったこと。そして、障がいとともにさまざまなことに挑戦する楽しさを多くの人に伝え、共有していきたいと思っています。



愛の輪は、日本とアジア太平洋の地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎ 06-6821-5270 🌐 <https://www.ainowa.jp/>



読者の皆様から送りいただいた
素敵な1枚をご紹介します。

みてもらおう!



大きなぶどうが採れたよ!
北海道滝川市 上野 里香さん



手の上でもぐもぐタイム!
宮城県気仙沼市 幕田 沙織さん



夕焼けにうっとり...
京都府京田辺市 陳 莉さん



一晩だけ咲く、月下美人
福岡県糟屋郡 正地 香緒里さん



みんなで仲良くバンザイ!
長野県佐久市 丹羽 裕美さん



彼岸花が咲く散歩道
岡山県倉敷市 高谷 明宏さん

あなたの
お便りや写真を
お寄せください。

あなたが体験したうれしかったことや、
誰かに聞いてもらいたいことなど、
身近な話題をお寄せください。
心よりお待ちしております。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
- 作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。
- 本号は、2021年7月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

No.419からのバックナンバーが下記の
アドレスからご覧になれます。
<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



引越しのおそうじにはダスキンモップが便利!
引越しのお手続きは、担当店・Webページ
ダスキンコンタクトセンター **0120-100100** まで



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100 www.duskin.co.jp

60-7C 2021.9 3383000